

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「笑顔に心を込めて 気配り 目配り 心配り」と言う理念をあげている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念は職員の目につきやすい所に掲示し、毎朝の申し送りの際に復唱している。お互いに助け合い、より良い介護をするよう心がけている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	行事の際、家族や地域の方々に参加していただき、利用者との交流を図っている。2か月に一度は推進委員会を開いて、地元・ご家族を案内し、活動内容を報告しあい、協力しあっている。	○ 小学生・中学生との交流はあるが、保育園・幼稚園との交流や、地元の「元気を広げる会」の講習者にも参加を促している。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近所の方々から、野菜をいただいたり、地元の神社や公園を散策して挨拶を交わしている。ホームで使う米を、近所の農家から分けてもらっている。	悠久祭りには、地域の自治会の方、地元の方も来ていただき、にぎわった。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地元の小学生・中学生のインタビューを受けたり、その発表会に招待されている。お礼に入所者の作った折り紙作品を差し上げている。地域の文化祭には、楽しんで作った作品を出品したり、敬老会には地元のお年寄りも招待し、参加していただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	悠久祭りに地域の方々や家族を招待し、施設の主治医による「認知症について」の講演会を開催した。		「悠久新聞」に認知症についての記事を毎回掲載し、地元の人に配布し、理解を得るようにしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	利用者が主体であることを、全職員が意識してカンファレンスを通じて理解するようにしている。	○	職員の質の向上に努力や反省をしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	悠久新聞を配布したり、報告、または、モニター役を依頼したりしている。「元気を広げる会」の会員にも、今後の参加を期待している。		他ホームでの活動内容を参考にしたり、市よりアドバイスをいただいたりして、サービス向上に活かしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて、積極的に連絡を取り、情報を交換し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	サービスの質の向上は、これで終わりということはないので、日々努力していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前、権利擁護の制度を利用していた方がおられたが、現在のところはいない。必要な方がおられたら、いつでもできる体制はとっている。現在、成年後見制度を利用している方が1名おられる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	できるだけ多く研修会に参加し、学ぶ機会を多く持つようにしている。定例会議・個々の話し合いの中で、日常的な観察を行い、些細な変化を見逃さず、早期発見に努めている。	○	声をかけるとき、他人行儀な言葉ではかえって親しみがわかず、馴れ馴れしい言葉だと年長者に対して失礼に当たってしまうので、注意を払うよう心がけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に十分な説明を行い、理解・納得を得ている。新規契約を必要とする時は、その都度、説明をしている。状態の変化により必要性が生じる場合は、契約書の内容の説明と確認をお願いしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、受付担当者及び解決責任者の氏名も明記している。また、全職員が情報を提供し、意見などがあれば改善策を話し合い、ノートにて伝達し、職員が周知するようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは、定期的の手紙にて、利用者の生活等について連絡・報告を行っている。緊急時には、電話連絡をしている。また、家族の面会時にも報告を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営委員会を設け、意見・不満・苦情を引き出し、運営に反映させている。また、職員は家族等と日頃から何でも話せる人間関係を作れるよう、努力している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例の部署会議を開き、問題点について意見交換し、ノートにて伝達している。また、緊急時には、すぐその場で連絡も取り合っている。できるだけ早い時期に改善されるよう努力している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	1か月前に、勤務の調整に努めている。また、状況の変化・要望に対応できるよう、職員間でも助け合い、勤務調整に心がけている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者全体の把握・理解に努め、利用者との馴染みの職員を配置できるように考慮し、支障をきたさないようにしている。交流レクリエーションにより、いずれの職員とも馴染みができるようにしている。新しい職員が入った場合は、家族等にも紹介している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実践者研修・管理者研修は、できる限り参加するようにし、その他できる範囲において参加できるようにしている。情報の提供をしたり、また、勤務の調整もしている。</p>	○	<p>パートの職員を配置し、勤務調整をしやすいようにしている。勤務の都合上、全員参加の勉強会はできていないが、個々に研修に参加し、話し合いはしている。グループホームに適した人材を育成していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に所属し、情報交換・意見交換をしている。近隣のグループホームとの交流もある。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の悩みは、運営者や管理者に相談している。生活相談員の資格を有する者もいて、相談しやすい。ケアストレスカウンセラーの通信教育を受講中の職員もいる。</p>	○	<p>ストレスを軽減するための工夫・配慮をしていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各職員が責任をもって処理する仕事を分担しており、運営者は個々の努力や実績・勤務状況を把握している。また、研究会や勉強会に、積極的に参加できるようにしている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に、相談の段階で家族・本人と面談し、情報収集し、十分な話し合いをして、受け止める努力をしている。入所後にトラブルが発生しないよう、努力している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>自宅を訪問し、現状を把握して、受け止める努力をしている。独居の方の中には、家屋敷を処分して入居された方もいる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前もって気がかりなことを話し合い、必要としている支援・サービスを説明し、よく聴く努力をしている。医療保険でのサービスや往診による受診、訪問歯科受診、訪問マッサージ等。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族にホームに訪れていただき、質問に応じ、安心して利用できることを説明したり、実際本人に体験していただいたり、家族とともに宿泊していただいたりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のできる範囲で家事などを一緒にし、職員と一緒に生活をしているという関係を築くことができるよう努力している。一緒に食事をしたり、食材の買出しにいった時には、どのキュウリが美味しいか教えていただいたりしている。ニュースを見れば、感想を言い合い、戦争中の話を聞かせていただいたりしている。		掃除・調理の準備・洗濯物たたみ・食器の片づけ・花の水遣り・買い物・献立の記帳・手芸等、職員が教えていただく立場をとっている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族等の訪問があったときには、本人が抱えている問題点や喜怒哀楽を、職員と一緒に話し合うようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族等の訪問は歓迎しており、訪問時には水入らずでリラックスして過ごせる場を提供し、お茶を差し上げたりしている。また、職員が本人の介護で疑問に思ったこと等を質問し、一緒に考えていくことで、より良い関係が保たれている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問は歓迎しており、関係が途切れないようにしている。		墓参り・銀行への預金の引き出し・友人宅への訪問など、少なからずある。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	互いに相性の良い方が、気軽に会話ができるように席順を配慮したり、居室に引きこもりにならないように誘導したりしている。また、利用者同士が互いに助け合う場面に職員が遭遇したときには、見守り、感謝の言葉をかけるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	環境の変化によるダメージを最小限に留めるように、本人・家族と話し合いを持ち、情報を交換しているが、十分ではない。道で会ったときは気軽に話している。	○	十分ではないので、今後、関係を断ち切らない付き合いを大切にしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活習慣・意思を尊重し、安心して暮らしができるように支援している。食事を取る場所、洗濯物を干す場所、起床時間や就寝時間等。本人が把握することが困難な場合は、家族等に確認して、検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等からの情報をアセスメントし、個々の生活歴やできること等を職員が理解し、快適な生活ができるよう支援している。センター方式を取り入れ、活用している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活習慣に応じて、具体的に計画を立て、全職員からも情報収集し、現場を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。家族等だけでなく、担当医師・看護師・マッサージ師等の指示も仰いでいる。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6か月で、見直しをしている。変化が生じた場合は、その都度、本人・家族・関係者等と話し合い、新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	7月よりセンター方式の個別記録に記入し、特徴や変化を捉え、介護計画の見直しに活かしている。便の排泄表・受診や往診時の指示、薬の変更時の様子などの観察記録も活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族等が入院して受診に同行できない時や、衣替えのための買い物や銀行に同行している。入院を勧められた(腰痛)利用者がいるが、家族の希望もあり、通院のみでホームでの生活を継続している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	車椅子を使用して、地域の商店での買物や、公園・神社・池への散策を楽しんでいる。地域の小中学生との交流、地域の文化祭への出品、見学ボランティアの受け入れ、警察・消防等と協力していただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターの職員の方との話し合いや、入居前の行きつけの病院等の利用を支援し、医療保険で補えるリハビリ等、サービスが利用できるような支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2か月に一度、運営委員会を開催し、それぞれの意見やアイデアを出し合っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の馴染みの医師による定期的な往診をしていただいている。緊急時には、その医師に連絡し、その都度、指示が受けられるシステム体制になっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症専門医の定期的な往診・訪問歯科の往診を、受けられるシステムになっている。また、往診時には、職員の相談に関し、快く応じていただいている。</p>		<p>認知症専門医師として、脳外科内科の医師の回診を、一週間に一度受けている。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>当ホームでは看護職員がいて、日常の健康管理の支援をしている。また、往診時に同行している看護師とも、気軽に相談することができている。緑茶による口腔ケアのアドバイスをいただいた。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>本人・家族との話し合いにより、早期退院できるよう、相談に努めている。また、入院せずに通院のみで、在宅治療や終末期治療をしている方もいる。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>いかなる場合も、本人・家族の希望・意見を尊重しつつ、全員で方針を共有している。内科的治療の必要な方は、定期的に検査をして、病状をチェックしている。変化を伝えられた時には、その都度話し合いをしている。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>緊急の場合、かかりつけ医と連絡をとり、夜間の場合でも対処できる体制を取っている。医療行為と判断されることには、介護職員は処置せず、看護師が対応している。</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人・家族等と十分な話し合いや情報交換を行い、できるだけ本人の希望に沿うように努力している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室への入室時にはノックや声かけをする。利用者の書類を事務所以外に放置しない。申し送りは入所者のいない場所とする。入所者の状態を職員同士で大声で話し合わない。赤ちゃん言葉で話さない。命令口調で利用者に接しない。	○ 時々、職員間で注意しあう必要がある。気がつかないうちに、うっかりしてしまう言葉かけや対応がある。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の目線に合わせ、ゆっくりと話を聞き、共感し、利用者が主体であることを重視している。	パリテーションの方法について事務所にも掲示し、常に利用者が表出しやすいように取り組んでいる。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思・希望を第一に考え、一人ひとりのペースに合わせるよう支援している。(起床・就寝時間、昼寝の時間、レクリエーションの参加・不参加、食事場所、入浴等)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望に応じて散髪・髭剃りをし、好みの服装をしている。散髪は理容師資格保持の職員が、散髪コーナーを確保し、別の場所で行っている。パーマは出張してもらっている。ご家族と一緒に、馴染みの理容店に行かれている方もある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者の好きな献立を取り入れて、味付け・盛り付けに工夫している。苦手のメニューの時は、別の物を作ったりしている。食事の準備・片づけなどは、利用者職員と一緒に、時には食堂で、時には台所で、積極的に、また、声かけによって行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みのものを、家族が差し入れたり、職員とともに買い物に行ったり、頼まれて職員が用意をする等、支援している。水分補給のために、ココア・コーヒー・紅茶・麦茶・番茶・イオン飲料等、多種用意している。おやつも一人ひとりの状況に合わせている。現在、飲酒・喫煙の方はいない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便記録を利用し、服薬時間や量の調整をしている。排泄パターンを一人ひとり調べ、トイレ誘導・介助を行っている。使用するオムツは、個々にあったものを選んでいく。特に、排便はトイレでできるように介助している。		できるだけ薬に頼らない、自然排泄ができるよう羞恥心の軽減のために、いろいろと試している。(寒天・バナナ・甘藷・ココア等)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの体調・浴室の温度・湯の温度等、本人に合っているか個別に対応している。予定日に入浴できなかった場合、できるだけ早い日に入浴できるように調整をする。時にはシャワー浴・足浴等、本人の希望にあわせていく。		介助する際には必ず声かけをし、滑り止めマットの使用・手引き誘導などを行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握し、昼夜逆転しないよう支援している。足のむくみを起こさないために見守りながら、足上げする時間を取るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の興味あることを把握し、支援している。カラオケ・園芸・新聞・家事・手芸を取り入れている。また、交流レクリエーションでは、音楽療法・回顧療法・学習療法にも取り組んでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のために、高額所持は避けている。個々の能力・希望に応じた額を所持している。職員と一緒に買い物に行き、お金が使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の公園・神社・川辺を散策したり、買い物や通院など職員とともに外出している。隣のアイスクリームを食べに行ったり、時には 外食(うどん)の支援をすることがある。		中庭の散策は自由にできるようにしてある。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見など、遠くに出かけるときは、家族の方も一緒に参加していただき、喜びを分かち合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、電話をしようことができ、手紙のやり取りができるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間も9時～21時と幅広い時間帯を用意している。面会を歓迎している。大勢の方々でも、プライバシーを守ることができる場所を用意し、茶菓子を出す等の気配り、心配りをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の申し送り時等で、その日のケアを振り返り、身体拘束が行っていないことを確認し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	午後の9時までは玄関の鍵を掛けずに、庭へ自由に出入りできるように配慮している。		夕方の「帰るコール」に対しては、声かけ、気分転換（茶話会への出席、誘い）などで、落ち着かされている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室への出入りは、ノック・声かけをしてから行い、全員の様子をさりげなく、常に見守っている。夜間は、利用者が見渡せる場所で見守っている。更衣中などは、プライバシー保護のためにドアを一部占めて介助しているが、外の様子にも気を配っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じて、さりげなく危険防止の取り組みをしている。針やハサミを持っている人もいる。（針の数は 本数を制限）床に落ちたものを食べる人・服薬ができない人もいる。皮むき器より包丁の方が使い慣れている人もいるので、さりげなく見守りをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを認識し、職員間での情報の共有を行っている。今後の事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルはあり、体制は整っている。	○	職員の中に、初期対応の訓練を受けたものもいる。順次、受講していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は、具体的に誘導の体制が整っている。夜勤時には手薄になるので、夜の災害を想定し、シュミレーションをするようにしている。		地域の協力体制については、自治会に協力依頼をしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所者一人ひとりに起こり得るリスクについて把握し、家族等に説明している。		普段から、家族との関係づくりを密にし、説明や工夫の取り組みを示し、抑圧感のない暮らしを支援していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入所者の普段からの様子を良く知り、常に変化・異常に気づいたら、看護師に相談、管理者への報告、家族への報告、病院への搬送、早期対応が日常化している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルし、職員が内容を把握できるようにしている。服薬する薬の目的や用法・副作用について理解しており、飲み忘れがないよう、支援している。症状に変化があった場合は、担当医師に連絡している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々に応じた自然排便を促すよう工夫している。排便記録をつけ、継続的に予防・対処している。繊維質の多い食材・ココア等による水分補給・寒天・バナナ・牛乳・ヨーグルトの摂取や声だし運動・交流レクリエーション時の体操等の支援をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアの重要性を理解し、手入れの支援をしている。訪問歯科の口腔ケアを週1回実施している。就寝前は、義歯の洗浄を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時・間食時・入浴後には水分摂取を支援し、野菜は煮野菜を中心に、汁物類は必須とし、1日ペットボトル1本分のお茶を用意している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、マスクや手袋を使用し、手洗い・消毒している。また、塩素系漂白剤を薄めた消毒液を作り、廊下・手すり等を拭いている。天気の良い日には、布団や畳を干している。下痢便・嘔吐物は新聞紙やビニール袋に入れて、口を縛り、速やかに屋外のごみ箱に捨てるようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒・乾燥を行い、食材は新鮮なうちに使用するよう工夫している。冷蔵庫や冷凍庫の点検清掃をきちんとしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外玄関からのアプローチに花木を植え、畑には野菜を作り、季節感の味をえる工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は自然木で建築されており、木の温もりが感じられる。天井が高く、威圧感がない。暖簾・すだれの利用、カレンダーや毎日の献立表、装飾品で季節感の演出、時にはα波のオルゴールが聞こえてくる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室リビングや奥の廊下に、気軽に腰かけられるソファがあり、玄関にも自由に座れる場所がある。仲の良いもの同志が、よく語らっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人が使い慣れた家具や備品を置いていただき、安心して生活できるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、食事時に全室換気している。できるだけ、自然環境に近い換気に心がけている。扇風機で空気の流れを作り、温度計・湿度計でチェックしている。直接、風が当たらないように工夫している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能の状態に合わせて、危険防止や自力でできるような道具を工夫している。入浴時にも、個々の能力に合った椅子を用意している。また、身体機能に応じて、手押し車やリクライニングの車椅子も使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかる力を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。自立して暮らせるように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に季節の花や野菜を植えたり、ベンチを置いている。花を摘んだり、中庭を散策したり、休憩する等、楽しんだり、活動したりすることができている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の方が心身共に穏やかに過ごしていただく。

今までの生活体験を踏まえ、残存機能を活かし、その人らしく暮らせるように支援する。そのための方法として、①職員間の和を第一とする。②本人・家族との話し合いをし、希望に添えるよう支援していく。③本人の立場に立った介護計画を作成し、その計画に沿った介護を支援する。④住み慣れた地域の中で、ホームの中で関わり合い、支えあいながら支援する。⑤医療体制を確立し、予防医療・病気の早期発見に努め、治療に努める。